

■ シンポジウム

大阪北部地震シンポジウム（茨木市）報告会

佐村河内 力¹，桜井 政成^{2*}

2018年9月18日（火）に茨木市福祉文化会館文化ホールにて開催されたシンポジウムの内容を収録したもの。主催者 茨木市災害ボランティアセンター

<論題>

大阪北部地震報告会を開催した。大阪北部地震では、最大震度6弱を記録した。その後、台風21号では茨木でも非常に多くの被害があり、壊れた屋根にブルーシートがかかったままの住宅が残っている。これまで茨木市災害ボランティアセンターで活躍いただいた三団体より、それぞれの立場、支援活動の違いを通じて何を学び、何を得たのかを報告し、大阪北部地震で得た関係をより強固な関係にすることで、今後起こりうる東南海地震へ良い形でつなげていくことを目的としてシンポジウムの報告をする。

◆パネリスト

佐藤 雄平 （一般社団法人 茨木青年会議所 理事長）
中島 武志 （レスキューアシスト 代表）
井谷 祐一 （NPO 法人国際 Vo 学生協会 IVUSA 学生本部役員）
佐村河内 力 （社会福祉法人 茨木市社会福祉協議会 課長代理）

◆コーディネーター

桜井 政成 （立命館大学 教授）

（役職は当日のもの）

* 1 立命館大学大学院政策科学研究科 博士前期課程

2 立命館大学政策科学部 教授

<佐藤>

大阪北部地震報告会を開催します。大阪北部地震、西日本豪雨災害、台風 21 号、北海道での地震で亡くなられた方々のご冥福を謹んで申し上げますとともに、犠牲された方、被災された方には心よりお見舞いを申し上げます。最大震度 6 弱を記録した大阪北部地震では本日の 9 月 18 日で発生から三ヶ月になります。その後、台風 21 号では茨木でも非常に多くの被害があり、今でも壊れた屋根にブルーシートがかかったままの住宅が残っています。まだ大阪北部地震は終わってはいませんが、三ヶ月経ちましたので、今回はこれまで災害ボランティアセンター（以下災害 VC）で活躍いただいた三団体の方にお越しいただきました。それぞれの立場、役割の違いを超えたお互いの支援活動の違いを通じて何を学び、何を得たのかを報告し、大阪北部地震で得た関係をより強固な関係にすることで、今後起こりうる南海地震へ良い形でつなげていくことを目的として報告会を進めさせていただきます。本日司会を進めさせていただきます。茨木市社協の佐藤遼と申します。

<佐藤>

本日パネリストとして活動報告していただく方をご紹介します。お一人目が、レスキューアシスト中島武志さんです。技術系プロボノ茨木ベースの主要 4 団体の一つとして、主にブルーシート張りをしていただき現在も茨木に残りブルーシート貼りをしています。本日もよろしくお願ひいたします。次に一般社団法人茨木青年会議所理事長の佐藤雄平さんです。青年会議所さんは、発災当初から人的、物的にも非常に多くの支援をしていただきました。本日もよろしくお願ひ致します。次に NPO 法人国際 Vo 学生協会 IVUSA 学生本部役員大阪茨木クラブ学生マネージャーの井谷祐一さんです。IVUSA さんは 100 人規模でボランティア（以下 Vo）活動していただき、ご活躍していただきました。本日もよろしくお願ひ致します。そして、茨木市社協佐村河内です。よろしくお願ひ致します。まとめ役として、コーディネーターをしていただきます、立命館大学政策科学部教授、桜井政成先生です。先生のプロフィールを少しだけ紹介いただきます。先生は長野県で生まれまして、大学時代阪神淡路大震災を京都で経験されました。Vo をして被災地を訪れて以来 Vo 活動、NPO 活動に非常に関心をもたれました。その後、NPO 法人の事務局員、大学 VC の Vo コーディネーター等を経て、2007 年 4 月より立命館大学政策科学部准教授、2015 年 4 月より同教授、そして 2013 年から 2014 年までトロント大学の地理都市計画学部客員教授をされていきました。現在は内閣府防災 Vo 活動の連携・協働に関する検討会の委員もされております。専門は社会学で研究分野は NPO、Vo、地域福祉、コミュニティなど非常にたくさんの分野を研究されております。これからの以降の進行につきましては、コーディネーターの桜井先生にお願ひ致します。

<桜井>

はい、ありがとうございます。お送りしたプロフィールを丁寧に読んでいただきました(笑)。本日はよろしくお願ひいたします。私は、地震の時、家は京都だったのですけれども、茨木に朝おりまして、そのまま 1 日帰れずに JR が止まっていたので、帰宅難民になりました。そういう意味では自宅が被害を受けたわけではないんですけれども、広い意味で被災した一人ではありまして、災害 VC には四日間だけお手伝いさせていただきました。そ

ここで被災された方のお話を伺う中で、その後大きな災害が別のところであったのがあったので外の人にはあまり伝わってないんですけれども、困っている人は茨木にはかなりいたと思います。それに対していくつか団体として関わっていた方達にお越しいただいて、最初の地震があったところから、どうだったか共有していただいて、茨木でまた災害が起こった時にどのように対処していただけるのだろうかということ、皆さんと一緒に考えていけたらというところが、今日の会の趣旨かなと思っています。

それでは早速、お話を伺っていきたいと思っています。トップバッターは、社協の佐村河内さんからです。災害 VC の今回の取組、災害の取組の全体を紹介いただければと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

<佐村河内>

私の方からは、大阪北部地震についてです。まず、社協の災害 VC の方に来ていただいて、ご支援ご協力いただいたこと心より感謝いたします。

大阪北部地震の概要ですが、6月18日月曜日、午前7時58分、大阪府北部で深さ約13km マグネチュード6.1の地震が発生。最大震度は6弱を観測。実際の震源地と震度を表したものです。このバツがついているところが震源地です。高槻と茨木の間に近いところ、ちょっと高槻よりにありまして、震度6弱、次に5という形で動いていることになっております。

私は、名称として『大阪北部地震』と使っていますが、気象庁としては、『大阪府北部を震源とする地震』としています。

被害について、人的被害は、茨木市でも死亡者が1人います。この方は、本棚が倒れまして、亡くなったという方、重症の方が1名、軽傷の方が68名ということで約70名いらっしゃいます。大阪府内全体でいうと高槻ですが、みなさんご存知のブロック塀が倒れたというところで、それも合わせて合計で5名です。

次に住宅被害は、茨木は、全壊3件、半壊96件、一部損壊14,174件あります。大阪、全体で見ますと一部損壊が多くて、44,166件あります。

参考にですが、平成7年の兵庫県南部地震、阪神大震災1995年1月17日、この時のマグニチュードは7.3、兵庫県の方で最大震度7ということで、この時の死亡者は6,434人で、住宅の全壊で10万4000棟ということで、桁が全然違います。

電気は、18日8時20分の段階で、大阪府17万戸停電がありました。10時20分に全て復旧。ガスは若干止まりまして茨木では、6万4254件、6日後の24日には全域で復旧。水道は、あまり被害がなく一部のみで断水。鉄道では、JRは、19日より本数減らしながら運行。阪急電車は、18日の22時45分に全線復旧。モノレールは時間かかりまして、全線復旧は25日。

災害 VC のことですが、災害 VC とは、災害時に被災地の Vo を円滑にすすめるための拠点です。一般に被災地域の社協が立ち上げます。今回も茨木社協が立ち上げさせていただきました。また、被災地外から災害 VC 運営経験者がアドバイスにまわることがあり、今回は、大阪府の社協から来ていただいて、ヒアリングをしていただいたりアドバイスを頂いたり、立ちあげのお手伝いをしていただきました。あと、被災地のニーズの把握、Vo の受け入れ調整ということが災害 VC の仕事になります。茨木社協での Vo 数 2,497 人、ニー

ズ数が 1,846 件です。これは 8 月 22 日の台風 21 号が起きる前の活動日までのデータです。その時の Vo、ニーズの数となっています。これが、Vo の変化です、6 月 19 日 VC の立ちあげの時からこちらに向かっていくことによって進んでいます。ピークは一番はじめの日曜日 6 月 24 日 358 人の方。次がその前日で 305 人。その後は、だんだん活動者が減りました。ニーズ、依頼件数の伸びは一番多い時で 1 日に 149 件。新規の数です。次に多いのは 140 件。最後 167 件が台風 21 号の依頼件数です。

これが発災当日の写真です、茨木市社協、この下の 4 階の状況。ロッカーやパソコン、実はこの上に乗っていたロッカーなんです。全部倒れています。ロッカー、パーティーションです。

6 月 19 日の発災の翌日に災害 VC を立ちあげました。これは市との協定に基づき、茨木市の方から要請がありました。当初は 4 階の会議室で実施。ニーズ登録のボランティアで、現在活動している人やニーズを張り出します。Vo が来ていただくとニーズと Vo をマッチングしてました。多くて 300 人以上これでしたが。多くの Vo が多く来るであろう予測していたので、会議室では狭く対応は難しく感じていたので、会館の一階のロビーに移転し受付やマッチング等をしていました。

ニーズが伸びた要因は、ポスティング作戦という一つの効果です。地図に、小学校区ごとに割り振りをして視覚化しました。小学校区ごとにポスティング、緑で斜線を引き、ポスティング終わったという印にしていきました。その上で次ぎにどこをポスティングするかということ決めいきました。ポスティングをした上でローリングという一軒一軒訪問して困りごとを聴き対応をしていきました。

2 週間立ちますとニーズが変わってきまして、瓦礫の撤去が多く出てきました。こちらに対応するためにレンタカーを借りて 2 トン車 1 台、軽トラ 5 台、軽バン 5 台、計 11 台で瓦礫を撤去することになりました。市内から瓦礫を集めて、グラウンドの方に仮置きして、大きな 2 トン車で環境センターの方に持って行く様にしました。その時には、燃えるゴミ、奥に瓦で種別ごとに分別して、グラウンドに仮置きしていました。

あと、技術系のプロボノ茨木ベースに関しては、グラウンドでベースを張っていただき、ブルーシート等の対応支援をしていただきました。茨木ベースは主要幹事団体として 4 団体ありました。西日本豪雨災害の時ですが、ベースの方と茨木市長と会談しています。プロボノさん等の技術系の方への講習会です。このときは高所作業での安全講習をしていたいでいる時です。たくさんの方に来ていただいております。あと、ブルーシートの張り方講習会です。これは 9 月 2 日の写真です、市役所の玄関のところです。

参考に、台風 21 号も茨木の方に被害がありましたので報告します。茨木神社の社務所です、元々地震で崩れて、改修するために足場を組んでいたところが飛んでます。神社の大きな木が倒れている。社協のとなりの中学校ですが、屋根がはがれたり、窓ガラスが割れたりしました。しっかり張っていたブルーシートが飛びました。台風 21 号後の数字ですが、Vo は 22 名増加で 2519 人。ニーズ数が 248 件増加、2,095 件。

震災に話が戻りますが、人口が密集している都市部での震災ですので、ライフラインが止まる、公共機関が止まる、家屋の倒壊などが多く起るのです。しかし、今回の震災は、ガスの一部のみ不通、あとのライフラインは通常。翌日には交通機関が復旧。家屋の倒壊も全半壊で 100 件程度、エレベーターは止まっているというのもありました。被害が見え

にくいというのがこの地震での一番の課題です。先ほど言った通りポスティングで社協の VC のことを知っていただく、ポスティングの方は茨木青年会議所、立命館、IVUSA に尽力いただいて、いろんな地域に広報することはできました。その時のチラシも試行錯誤さしていただいて、最初は電話 1 回線、次には 4 回線、次は裏がニーズ表になっていてファックスでも対応できるように作成し、私たちも試行錯誤しながらすすめました。

茨木社協の災害 VC の活動で運が良かったことは、これまで社協としていろいろな事業に取り組んでいたことがあります。地域担当者制度では、民生委員さんとの関わりが、そこから情報収集でき地域単位で情報把握ができたと思います。あと、大阪府社協や外部からの支援いただいた方も以前にお世話になった方でした。顔見知りの方々が来て支援していただいたので、素直に甘えさせていただいた。次に、プロボノさんが茨木に来ていただいたということ。たまたま、VC の人の顔を知っていただいていたことがあり、そこからいろんなプロボノさんに来ていただいた。

今後ですけれども、ニーズをいかに顕在化させていくかが課題だと思っています。何気ない日常で何をすべきか、住民が地域に何ができるかを考えるのが必要だと思っています。あと、各団体間のネットワークの強化で、今回の震災で新たにできたつながりを次にどうつなげていくか、このつながりが大事で、茨木モデルといった団体間の情報連携の強化、ヒト・モノ・カネ・情報を共有し、より強固にしていきたいと思っています。次に三番目で次への震災への備えとして資源等の準備等を茨木においてストックヤードができないかなと思っています。スコップやヘルメット、長靴などを保管できる場所が必要です。

災害 VC のスペースですけれども、今回は会館のロビーでしたが 350 人が限界です。これ以上大人数を受け入れる時に待機室がなくスペース面は課題です。またこの会館にはホールがあり、ホールでピアノの発表会がありまして、下で Vo さんが活動や待機していて、ホールやエレベーターでは、綺麗なドレスを着ている子供達がいる、同じところであるけれどもギャップがありました。そういった意味でもスペースの確保の必要だと思っています。

あとの課題は、茨木住民の Vo の確保です。災害 Vo でチーム茨木みたいなのを考えています。ブルーシート張りとかも対応とかも養成した方々でやっていきたいと思っています。ヘルメットやハーネスも選定しているところです。なぜかと言いますと、今回の来ていただいた Vo の比率で茨木市内の方は 18.3%、茨木市外の府内の方は 44%、府外の方 37% で非常に茨木市民の方が少ないです。ここの人数を伸ばしていきたいと思っています。

<桜井>

佐村河内さんありがとうございました。今の話は、地域の中の民生委員さんとの繋がりでのニーズの把握、対外的な地域の外での NPO や市民団体、あるいは大阪府内の社協との繋がりの中で支援を得られた、という、「つながり」が両方にあったと思います。ただ気がかりだったのが、Vo の比率です。茨木市内からの Vo が少ないところで、もう少しあっても良かったと思います。この点について、佐村河内さんから補足いただけないでしょうか。また想定外のことで、こういう予定をしていたけどどうまくいかなかった、ということがあればお教えいただければと思います。

<佐村河内>

まず、Vo の数はこれくらいと思っていました。もともと VC に登録していただいている現役世代がそこまでいらっしやるわけではないので、日常がはじまっているし、そうなれば Vo の比率が変わらないと思っていたんですけれども、蓋をあけてみれば悲しい状態でした。想定外なことは、西日本豪雨災害が発生です。ほとんどそちらの方に流れているというところですね、プロボノさんも武ちゃんのところを残して移動しました。

<桜井>

ありがとうございます。続きまして、災害 NPO レスキューアシストの中島様からお話しいただきます。よろしくお願いいたします。

<中島>

よろしくお願いいたします。災害要配慮者救援 NPO 法人レスキューアシスト代表の中島武志と武ちゃんマンです。話をするのは得意ではないですが、よろしくお願いいたします。要配慮者とは、妊婦さん、赤ちゃん、お年寄り子供、障害者、外国人、貧困者 LGBT と置かれています。この人たちの不安な心を支援するというのでやっています。レスキューアシストは災害時にいち早く要配慮者の元いき支援することを活動としております。

熊本地震の日も 26 時間運転し、いろんな要配慮者の避難所をまわり物資を配り情報を得たりしました。大阪北部地震もすぐに茨木や高槻に行き、要配慮者を探しましたが、なかなか見つかりませんでした。スタッフ Vo さんに、民間のヘルパー会社に、一日中茨木市のヘルパー会社に電話してもらいました。そしたら、思いの外いろんな方達に自分たちも忘れられていなかったということで喜んでもらいました。初期は食事どうしていると思って、ガスコンロ、カセットコンロを集めてそれをヘルパーステーションに届けて各ヘルパーさんが障害者や高齢者の方に配るという活動をまずやりました。実際には市の職員も被災者になると知っていただきたい。みなさん災害は初めてで市の職員や社協の方もパニックになる。そういったときに外部団体が役に立つと思っています。

茨木市社協さんに知り合いがいて、こっちの活動をすることに決めました。19 日の夕方に決めて 20 日にはこちらにはいりました。日本のあらゆるテクニカル Vo、プロボノともいう団体の方々が茨木にみんな集まって茨木ベースという名前でもみなさんで活動しようということになりました。大阪出身ということで私がリーダーをやりました。

朝 7 時に朝礼。7 時半に活動開始ということで、ものすごく暑さでした。暑さで Vo さんが参ってしまっていました。屋根の上が 60~75 度くらいの温度になるので足の裏が火傷するくらい暑いんです。10 分くらい屋根に上がっていると汗が止まらなくなり思考回路がおかしくなります。こまめな休憩が必要です。涼しい時間ということで朝早くに活動を開始しました。この時の注意は事故しないこと。Vo さんが事故、死亡事故などが 1 件でもおきると待っている全ての人に迷惑がかかる。安全に関しては、みんなで注意して指差しでやっていました。夜は 10 時 11 時まで話し合っ、明日はどうしようと作戦会議を毎日やっていました。これは 8 月の情報なんですけれども、活動件数は 253 件の 1200 人ほど全国から Vo さんが来ていただきました。9 月はもうちょっと台風の後もやりましたので、もう少し増えてます。7 月の西日本豪雨を境に Vo さんが激減しました。台風 21 号がきました。

発災後3ヶ月経つんですけども、こういうお家がたくさんあるんです。もう完全にこうなったら雨が入って雨漏りします。屋根にあがらないとみえないことがあります。屋根の被害をそのままにすると、家自体がダメになります。カビが生えたり、天井が抜けたりする。カビが生えて、最後は住めなくなります。茨木でも、空き家が同じ状態になっていました。人の住んでいるところの件数があまりに多く、そこを優先にするんですが、下見に行ったら同じように茨木でもカビが生えてました。その度にどうしたらいいのか考えました。本当は一刻も早く屋根の応急処置をしたいんですが、人手が足りません。誰もができるものではないので、少しでも多くの人に関われるように社協や震災のネットワークを元に講習会をしました。しかし、台風21号の後100件を超えるブルーシート張りのニーズが発生し、様々な経験と失敗を元に茨木市屋根応急処置を活動中と書いているんです。今まで屋根に土嚢袋を乗せて活動していましたが、屋根の上に50~80の土嚢袋を乗せるんですが、乗せた土嚢袋が飛んでしまって、まさか台風で飛ぶとは思わなかったです。そこで、茨木式応急処置を開発しました。茨木市の方式なんですが一切土嚢袋を使わないです。利点は取り付けが簡単になります。また、住民さんの負担が減ります。土嚢袋が多くあれば、業者の費用が高くなり、住民さんの金銭的負担が増します。土嚢袋を使わない方法を提案し、プロの瓦屋さん大工屋さんと相談してどうやればいいのかを思案しました。

大阪北部地震、西日本豪雨災害、台風21号、北海道地震で今後の災害に備える、備えるのは当たり前で構えてください。備えるのは当たり前です。台風が来るのはわかっていて備えるのは当たり前。次は構えるんです。まさかうちが停電にはならないだろうと、みんなまさかと思っているんですよ。そうじゃないんですよ、構えてください。そのために茨木では、社協とレスキューアシストいち早く大阪を支えて、二府4県、もしくは全国に災害があった時に物資を届けれるようにできたらと思っています。これは名古屋の方でレスキューストックヤードという団体が各災害VCが開いた物資を配っているんですが、いろんなところで災害が起こると物資が足りません。物資があるVCとないところがある。今、関西にはそういった団体がないので、茨木から関西を守れたらと思っています。まあ、人の力でしかできないこと、人の力でしかできないこと、現場の人間ではできないことがあります。これが一つになって連携することでより早い復興なんです。できれば、茨木ベースを見に来てほしい。来たらすることはあります。そして、みなさんの力を貸して下さい。全国から来ているし、市議会さん市役所からも来られている人がいます。できる人ができることから、できることをする。小さい子も土嚢袋を作ってくれました。最後になりますが、大阪は、とても水害にあいやすい場所です。もし、台風が来て水門が一つでも閉まらなかったら大変なことになります。今回は高潮被害が少なかったんですが、同じことは起きませんので、本当に真剣に考えて構えるべきだと思います。

<桜井>

ありがとうございました。私も「構え」が大切だと思っていました。構えというと、野球をやっている方はわかると思うんですが、守備でどんな球がきてもすぐに対応できる構えってありますよね。災害支援は、「同じ現場は二つとない」ということがよく言われます。それにどう対応できるのかには、必要な構えが何なのかを考えることが大事だと思っていました。ところで、茨木ベースは、場所はどこにあるのでしょうか？

<中島>

場所は、豊川の近く宿久庄というところです。市長さんから空いている市の施設を貸していただいてベースを構えております。

<桜井>

レスキューアシストさんが一番に支援を届けるというところで要配慮者という言葉が使われていましたけれども、今回の大阪北部地震で見られた一番多かったニーズは、屋根の被害でブルーシート張りだと思えます。ところで、それ以外の個別のニーズで、こういうことがマスコミ等には伝わってなくて、こういうお困りの人がいた、というのがあれば、お教えいただければと思います。

<中島>

お風呂に入りたいという案件は多かったです。特に障害をもっている方がお風呂に行く場所がない。その手段がないというところでした。水で洗えばよかったというところがあるとも思うのですが、まだ6月の寒い時期で、障害をもっている方で、一人で入れない方、自衛隊風呂にも障害をもっている人は入れないですよ。お風呂に関してもっと障害者の人たちのことを考えていただければと思いました。

<桜井>

お風呂は、うちの大学でもシャワーを関係者にだけオープンにしたんですけれども。これまでも被災地では仮設のお風呂の開設がされたりもしてきていますが、風呂場泥棒が結構被災地であつたらしく、重要なニーズではあるんですけれども、開設には気を使わなければいけない、難しい事のように思っています。次にいきたいと思えます。茨木青年会議所から佐藤さんお願いいたします。

<佐藤>

一般社団法人茨木青年会議所、今年度の理事長をしています佐藤と申します。私たちのジャンルはこのようになっていまして、当日の動きは朝地震が起きていてから、私どもは茨木市内で60人いるメンバーの安否確認をおこないました。幸い連絡がすぐつくメンバーが多かったんですが、そうじゃないメンバーはご自宅や勤務先に迎えるものは向かって2時間以内には全員の安否確認が取れてました。その後、それぞれの手がいっぱいの中で当日の動きとして市役所からブルーシートの配布をされていたので、そのお手伝いからはじめました。その中で気づいたことは、皆さんが思っている以上に配布されているブルーシートが大きすぎて取りには来たけども持って帰れないということでした。取りには来たけども持って帰ることが厳しかったということです。諦めて帰る方がたくさんいました。我々は、独自の動きでそれぞれの自家用車で、その旨を伝えた上で自宅までお送り、ブルーシートを運ぶというお手伝いをメンバーでしました。同時に青年会議所はそれぞれの地域に根ざしている団体で、自分たちは茨木なんですけれども府内で29ありまして、それぞれの会議所と連携して被害状況などの話し合いを電話でおこないました。執行部のミーティ

ングを緊急で行なって、今後どうしていくかを当日の動きとして考えていました。その中で出た中で、物的なものとして武ちゃんやプロボノの方や社協の佐村河内さんからアドバイスいただいてブルーシートの 3,000 番とその時点では土嚢と uv 用の土嚢と農業用で使われる紐、それを大阪ブロックに投げかけて 29 あるうちの 16 の青年会議所から翌日、翌々日には運び込まれて提供させていただいたということで、それらを用いで Vo 活動に提供させていただきました。車両の提供もメンバーの社用車や自家用車だったりしますがそれを 8 台提供させていただいて Vo 活動に使っていただきました。あとは水です。水も当初はそんなに茨木では断水はなかったんですけども受け入れ口があったので四トン分提供させていただきました。搬入先として当初は VC の中が広くなかったのでメンバーの中で工務店の人がいましたのでそちらを受け入れ先としてさせていただきました。こちらの写真のような形で車を提供させていただきました。人的支援は、すべて全メンバーを Vo 保険に加入しまして翌日から災害ボランティアセンターの活動に 30 名が入れ替わりなんですけど、ニーズをこなしていき、茨木に住み暮らしているメンバーが多かったので、運転手として他府県から来られた Vo さんがどこにいけばいいのかわからないので、ニーズ表で地図があっても分からないので、道案内をして我々が運転して現場へ連れていきました。日頃我々も団体とし連携を取っているライオンズクラブとも支援の調整の連絡を取って、何がどこに必要かということで武ちゃんとも連携をとって、武ちゃんのところに土や砂、土嚢袋などを提供させていただいております。この活動は一ヶ月ほど切れることなく続けさせていただきました。このメンバーが現場で活動している方々です。独自の支援として、活動を行うのに車両提供をしているんですけども、事故があってはいけないので、保険に入っているということと、防犯協会さんと連携して火事場泥棒といった停電した暗い中で被害にあった方から連絡を受けて、我々のメンバーで夜の発災後数日後から三日間メンバーを三つぐらいの団体にわけて阪急茨木市、JR 茨木、阪急南茨木近辺を夜 1 時か 2 時くらいから 1~2 時間ほど夜警していました。これは正直昼に Vo をしながら夜も夜警していたので、メンバーは辛かったのですが、これが抑止力にもなり通報もなかったので効果があったと思っています。VC の方は IVUSA も動きが早かったのですが、発災後二日目ぐらいからチラシを佐村河内さんと内容の調整も取りながら、早く吸い上げないと Vo のニーズが少ないと当初の課題とっていましたので、商店街などに VC に来てくださいと手配りしていました。VC には最初の土日とか 300 人以上来ていましたが回るころがないということだったので、どんどんニーズを吸い上げないという活動をしていました。

これが夜警のところと、商店街の中を回って商店さんにポスターやチラシを配り、張り出させていただいて、人目がつくようにしていました。商店街の皆さんとは、いろんなまちづくりを一緒にしています。去年は、キッズ商店街ということで、実際の職業体験をしてもらえることもやったのですが、その際に協力していただいた店舗さんとかは顔が知れているので、どんどん告知していただければということでたくさん協力いただいて、日頃の成果が見えたと思っています。青年会議所は、現役メンバーは 20~40 歳のメンバーなんですけど、卒業された方はシニアクラブがありまして、その方々とも連絡を取って、さらに物的な支援をいただいて提供させていただきました。茨木ライオンズクラブとも連携して物的支援をおこないました。市外のネットワークとしては青年会議所の災害対策本部は隣の高槻にありました。ブロック協議会との連携、大阪ブロックの次は近畿二府四県で近畿

地区協議会があり、そちらでも災害支援マニュアルを活用しました。茨木市にいるメンバー個人個人の繋がりによる支援をたくさんいただきました。市外のネットワークとして、あとは JC との繋がりなんですけれども、JC には世界で 121 カ国加盟している国があり、総メンバーが、16 万 2000 名、国内では 36,000 名、近畿地区 5,200 名、大阪府内で 2900 名が活動しています。その中で茨木 JC は 60 名いますが、我々は災害 Vo だけをしている団体ではなくて茨木市内のまちづくりの原点、人との繋がりつくり出して茨木市を活性化、地域を強くするために何をすべきかを日々考えて活動している団体であります。今後の課題としてはプロボノさんだけで街を守るというわけではないので、皆さんが一人一人おうちや家族を守るために何をやるのかという意識づけが大切ではないか、それに伴って皆さんと活動している中で災害協定などを今後持続的な可能性のあるもので考えていきたいと思っております。JC だけではできないので皆さんの協力あってのものと考えております。今後としても、日頃から情報の共有をして有事の際に円滑に活動できるように、今から南海トラフなどが起きた際、今回の災害や西日本豪雨でも、茨木市内では物資食料が枯渇してないのですが、想定しうる範囲内で食料の枯渇、停電、ガスが止まるという状態が半年続くことは想定して、今からでも構えて、今、震災が起きても半年くらいは家族を賄えるということを考えていかなければならないと思っております。それ以外にも行政もコミット、市長も支援していただいていたたり、佐村河内さんも支援をいっぱいいただいているので、その辺は心配ないと思っております。避難所の運営、今も続いているネットワークの中で避難所の運営は見えてないところがたくさんあるということで、今回の活動でも、もっと停電やガスが続くと被害がおきたときに、今見えていないところにどのように対処していくかは、茨木フェスティバルのように市民の方にも入っていただいて会議を重ねて、茨木市が一つとなりしっかりと連携をとって茨木市自体が強力な街になってそれができるとなると震災に対するモデルケースになるような街なればと我々は考えております。

<桜井>

ありがとうございました。JC の活動はそれぞれが商売をされているというのがいちばんの強みだと思います。そこで持っている資源として、自営の方も多いですから地域の方との繋がり強く待っている方が多いので、それが災害時には支援、復興のところで生かされているのだと思えました。一つ教えていただければと思いますが、これまで JC の中で、災害を想定したことはどれだけありましたか？

<佐藤>

防災としての取組はブロックや近畿地区協議会では防災ネットワーク委員会があり、毎年毎年日本中で震災が続いています。茨木市単体でやっているとというのは昨年、一昨年に立命館の場所を借りて防災運動会実施しました。広く一般的な防災に対する取組はできてなかったです。他団体との連携は、それぞれ事業やっている中では連携させていただいているので、今回のプロボノさんとの連携等も、専務等が毎日朝から会議等にも参加していただいているので、情報共有等はできていると思っております、やはり事前にできていればいいと思うので、これからはやっつけようと思っております。

<桜井>

災害が起きて大変だったかと思うのですが、メンバーの方々のところの事業はきちんと復帰できたのでしょうか。もっと大きな災害では BCP（事業継続計画）などがあり、直ちに復興できればいいんですけども、そこが大変だと地域づくりや復興の Vo 活動まで、手が回っていかないと思うんですけども、JC 中での支え合いとかはありましたでしょうか？

<佐藤>

その辺はまだまだ、一応我々青年という団体なので、まあまあ熱いメンバーがいて、自分の事業はいいと、まずは茨木市なんとなしなないとという形で毎日ボラセンにつめているメンバーが多くて今は社協の方も流れに乗っていると思うんですけども、後先考えずにすぐ街のことを考えているので、本当は家族が大丈夫だったらいいと思って、まずは街のことを考えていたと思います。

<桜井>

ありがとうございました。お話をお聞きして、非常に頼もしく思いました。災害が起きてから時間が経ち、落ち着いてきてからも、ビジネス環境もそうでしょうけれども、より幅広いニーズがでてくるかと思えます。そういった意味ではまだ復興の途中だと思っています。最後の報告を国際 Vo 学生協会 IVUSA 井谷さんお願いします。

<井谷>

NPO 法人国際 Vo 学生法人 IVUSA の立命館いばらきキャンパス（以下 OIC）のメンバーを中心とした大阪茨木クラブのクラブマネージャーの立命館大学経営学部の井谷と申します。僕の方から報告させていただきます。団体の報告の前に僕自身も地元が大阪府の摂津市でこの地震の際に朝目覚めた時に物が落ちてきてどうしたらいいかわからない状況でしたが、1 日は学生の僕の支部のメンバーにラインだとかで安否確認をとって、特に下宿生、一人暮らしがうちのメンバー 82 人中の 3 分の 1 が下宿生だったので安否確認とか不安のメンタルケアとか当日はしていました。うちの団体が活動していたのは 6 月 19 日からですが。活動入る前に、僕たちの団体の自己紹介の方していきます。国際 Vo 学生協会 IVUSA です、IVUSA なんですけども英語の頭文字をとったものとなります。僕たちの団体ですが、全国で 90 大学 4000 人の学生が所属しています。東は中央大学や法政大学、関西だと関関同立の学生が所属している団体です。活動ですけども、僕たち災害の Vo をやっているんですが、普段は 5 分野の活動をやっております。国際、環境保護、地域活性、災害救援、子供の教育支援など五つの分野に支援しています。災害救援の方は直近でいうと東日本大震災、熊本地震、九州北部豪雨の災害の方に行きました。そこで災害救援においても様々な分野をやっておりました。茨木市との関わりなんですけど、OIC のできた 2015 年 4 月に茨木クラブとして支部を設立しました。僕もそちらの一期生として入って、新しいキャンパスで学んで、そこから茨木の Vo 事業を様々な活動をしています。例えば、茨木市社協さんがやっているみんな集まれ Vo の方に四月の下旬にイベントですが、二年前から参加させていただいております。今年で 3 回目です。また、茨木市の泉原の方の里山センターにあ

る里山祭りの運営補助だったり、彩都西の方の鉢伏山の里山保全活動だったり、天王地区の大正川清掃活動とか月 1、2 回のペースでやっております。この後に災害の詳しい報告ですが、今回活動に入ったのは発災の二日後の次の日の火曜日になっております。なんでこんなに早いこと作業できたというと日頃から茨木市社協と一緒に活動していて、社協の方からお手伝いをお願いしたいと連絡をいただいたので、IVUSA の本部（高槻市）に連絡とり、IVUSA の NPO 法人として活動していくこととなりました。活動について、6 月 19 日から 7 月 15 日まで高槻と合わさった日数なんですけれども、参加人数 422 人、延べ参加人数 840 人の学生が活動しました。茨木と高槻で合算にはなりますが、関東から夜行バスに乗って週末来てくれたり、僕も地元民としてもありがたかったし、改めて団体内のネットワークもすごいと思いました。僕も摂津ですけれども祖父母の家が茨木にありまして、僕も頭が下がる思いでした。活動は時間に沿ってくわしく話していきます。6 月 19 日、災害ボラセンが開いてまもない時に僕たちの方で NPO 法人の事務局 3 名と僕たちの立命館の大阪茨木クラブのメンバー四人で現場に入らせていただきました。発災直後で一軒入らせてもらったんですけれども、物が散乱して土壁が崩れて、階段の上に散乱したり、そのまま地震の被害が残っている状態が二日目でした。こういった形で 1 日目入って、この日に IVUSA の方と社協さんの方で、うちの団体は人数が多いので受け入れ調整をして次の日から IVUSA の学生に呼び込んで本格的に活動して行きました。次の日からは OIC が地震の影響で一週間休みになったので、団体からも多く参加しました。特に発災の一週間に多かったものとしては家屋内の作業、がれきの撤去、崩壊した壁の撤去、僕たち学生の力でもできる作業をして行きました。あとはプロボノさんのサポートをするような業務をして行きました。市役所のグラウンドで土嚢作りをやりました。数百個つくりました。土嚢作りなど、自分たちにできるところからはじめました。先ほど佐村河内さんからもあったと思うんですけれども、僕たち一週間後の週末から次の 7 月に差し掛かるまでの二週目まで主に茨木で活動を多くやっております。Vo ニーズを多く発掘するということで、Vo の支援をするためにニーズが上がってこないとか、ボラセンが知られていないこと、支援の抜け落ちや漏れがないように調査に行きました。ボラセンや支援プログラムの周知だったり、ニーズがないことを証明したりして、災害ボラセンをしめて社協が通常業務に戻れるように僕たちがこういった形でやらさせていただきました。なので、このオレンジTEEシャツを着た人を見たことがある人と思うんですけれども、いろんな地区に自転車でもわったり一軒一軒訪問したりして行きました。その結果、さきほどもあった地図何ですけれども、一週間目はこのあたり葦原の小学校の方や春日の方に行ったり、平日は人数少ないながらも茨木市のこのあたりでやっておりました。次の週は水尾小学校や玉島小学校だったり水尾公園にベースを張って、ヒアリングだったりポスティングをして行きました。僕たちが合計 15 日間まわった件数なんですけれども、ニーズを探すヒアリングは 6350 件、ポスティングをしてボラセンやイベントの周知で 8510 件しました。その中で、ボラセンの認知がなかったのでニーズ発掘数 108 件この中からニーズがでてくることができました。こちらなんですけれども、すぐ終わることは僕たちがその場で対応して、プロボノさんの助けが必要なところは持ち帰って、108 件やりました。茨木市全域に行かせていただいて、現場のお宅の方の声とか聞いた上で活動行なって見えてきたものを何点か話していきます。日頃から災害時には災害 VC が立ち上がるということをもっと事前知っておく必要があると思

いました。急に訪問して驚く方がいたり、そんなもんがあるんだと知らなかった人もいました。ニーズがあがってきたなかで集合住宅の上層部で家具が倒れたり、揺れの幅が大きくなったりする中でニーズが多いと思いました。一人暮らしや高齢の方が不安がってると思いました。お宅に訪問したら会話をしたりして、元気付けをして欲しい方もいらっしゃいました。終盤に関して、これ地震が原因のニーズなのかわからない方もいました。いかにニーズを早く吸い上げて迅速に対応していくか、仕組みを整えてくところが大事だと思います。休講のおかげで半分のメンバーが参加しました。大正川清掃でお世話になっている方から直接支援の依頼が来たりもしました。これがその時の様子なんですけれども、日頃 Vo 活動でお世話になっているところから逆に助けて欲しいというところがあって日頃から活動していて良かったと思いました。頼ってもらえて、これまで一緒に頑張っていて、一緒に地域づくりをしているというところが分かり良かったと思いました。僕たちは、大学のある茨木市で率先して活動できたと思います。そして、日頃からのネットワークもいかせて良かったと思いました。僕たちも、他四年生は卒業していくんですけども大学生として IVUSA の組織は残っていますので、日頃の活動をどう災害でいかしていくかを考えていきたいと思います。Vo 活動も市民の皆さんとも考えていますので、有事の時にこれからも動いていただければと思います。

<桜井>

IVUSA は不思議な団体ですね、学生サークルというのは、はやければ一年ぐらいで活動を休止する団体も多いんですけども、IVUSA は長く継続されています。東日本大震災その当ても IVUSA の学生は頼もしかったですね。一つ聞きたいのは、IVUSA の学生はなぜこんなに参加したのでしょうか？一般的に、大学生はそれほど、今回、災害 Vo に参加していなかったように思うのですが。

<井谷>

そうですね、IVUSA は災害救援があったら即座に安否確認被害収集を組織化してやるのが当たり前で、何かあったら災害救援活動あるかもと自分たちの団体の会員はだいたい思っています。そういった意識と、あと今回は僕が支部長をするということで茨木のメンバーに声かけて、他もクラブがあるところで災害が起きるのはなかったもので、今回はすぐに集まったと思います。

<桜井>

「学生でもできる活動」という側面もあったかと思いますが、むしろ、「学生だからできた」というところがあったかと思います。被災者の方のお宅にニーズの聞き取りに行く際も、大人が行ってもあまり話をしてもらえなくて、学生が行くと心を開いてもらえたりする。若者ならではと思います。もう一つ、似たような質問になりますが、団体の取組を、大学で他の学生に周知することなどはされたのでしょうか？せっかくよい活動をしているので、多くの学生がしれたら良いと思うのですが。

<井谷>

IVUSAにもそういったセクションはありまして、他の防災団体や防災ゼミとかと一緒にやればと思っています。自分たちが一番災害現場といったところ見ているので、その中でも学校の中でも働きかけて僕たちの経験も体制も組織して動けていければと思っています。ただそれもこれからです。頑張っていきます。

<桜井>

ありがとうございます。フロアの方から質問などはありませんでしょうか？

<フロア>

ありがとうございました。私も微力ながら関わったんですが、思ったことを発現させていただければと思っています。私は三月まで学生で4月から社会人なんですが、大阪市内に職場があります。この茨木市内は通勤で多くの方が会社に行って夕方戻ってくる方が多いと思うんですが、そうなった時に茨木の街で災害が起こって誰が動けるのか、やっぱり学生の力って大きいと思っていたんですけども、災害が起こるとVo何ができるのか声がみんな上がっていたと思うんですけども、そういった思いを地域につなげる仕組みをできればと思うし、後輩にはそうなって欲しいなと思いました。

<桜井>

ありがとうございます。茨木市内の方がVoとして参加が少なかったことと関連があると思うのですが、登壇された方で、災害支援への地域の方々の参加について、今後どうすれば良いとお考えでしょうか？

<佐村河内>

仕組みは今の所ないですが、地域の方で、民生委員や福祉委員はいますので、何かあった時に伝えていくのが重要だと思っています。

<中島>

東日本のあいさつのCMをずっとみて洗脳されてはじめてところがあるんですけども、マスメディアや大企業でVoに行こうとCMをつくっていれば動くと思っています。またミュージシャンや芸能人のVoがあつたら宣伝があつたら動くと思います。芸能人の呼びかけがあつたら、もっとファンだとかは動くと思います。

<桜井>

ありがとうございます。私が通勤する大学のキャンパスが京都から大阪に移って一つ痛感したのは、大阪には地域メディアがないんですね。京都だったら、学生が何か地域で活動したら、すぐにプレスリリースして、すぐに取り上げていただける媒体が豊富にある気がします。京都新聞、NHKの京都市局など、テレビや新聞に取り上げていただけて、学生もやる気が出たりするんですね。しかし大阪は、テレビはキー局ばかりで、地方紙としてはスポーツ新聞しかない。私の体験ですが、京都の喫茶店で仕事をしてたら、大阪から来た別のお客さんがマスターに話しかけていた。「これ面白いフリーペーパーやな」と。見

てみたら京都新聞でした。京都では、90%のシェアがある新聞なのですが（笑）。いずれにしても、そういった地域の被害とかVoとか中の人に伝えていく手段がないと思いました。

<フロア>

大阪市内に在住しています。災害Vo活動をいろんなところでやっています。私も、メディアの少なさを感じています。大阪に住んでいる人もそんなに大きな災害でもなかった感じていなかったと思っています。生野区在住なんですけれども、生野の周りの人は地震に関しては揺れたと思ってることしかなかったと思うんです。茨木や高槻で家が崩れたり半壊になったりそういった認識がなかったと思っています。私からの質問なんですけれども、台風21号で大阪市内でも大きな被害が結構ありまして、生野区でも災害Vo活動するとなっているんですが、せっかくなので茨木市社協の方とかに来てもらったらと思っているんですけれども、社協の中でのノウハウの共有とかどのようになってたんですか？

<佐村河内>

社協間の連携は大阪市と茨木市はあまり連携がとれてないです。茨木市は大阪府の社協が取りまとめて、大阪市は政令指定都市なので独自の動きになり、日頃の連携はとれてません。osnというネットワークがあるのですが、大阪市の方とは台風21号について今日も協議をさせていただいて、やっと連携がとれてきています。

<フロア>

吹田の災害Vo少し行ったんですけれども、日曜日あまり企業さんきてないというところやったので吹田の社協の方には京都に東京のコカコーラさんが慰安旅行に来て急遽伊丹から吹田の社協に来てくれて観光バスごとすごい木がすごい倒れていたところで片付けてくれたというところがありました。私が聞きたいのは万博とかでVoフェスティバルやってるなと一、二回やってきたことがあります。で、先ほど防災運動会といったのがありましたが、どういったことやっているんですか？いままで知らなかったもので、それが防災意識が上がったらおもしろいと思ひまして、何をやっているのか知りたいと思ひました。

<佐藤>

年度ごとにやる事業の一つとしてやっておりまして、毎年やっているものではないです。今後としては、各団体と連携をとってしっかり広報も踏まえてそういった取組であったり運動の要素を含めてそういったものを構築しているところです。先ほどの大阪災害ネットワークの会議も毎週やっているのなのでなんとかしてこれを身につけていけるようにできればと思っています。

<フロア>

仕事柄、防災の研究をしています。今日の話Voの話があったと思うんですけれども、武ちゃんさんの構えという話がうまくいくのかということに疑問をもっています。そんな中で佐村河内さんが他の団体とうまく日頃から連携をとっているというところに対して、たまたま運が良かったといういいかをされていたましたがああいう言い方をしてほしくない

と思っています。日頃から非日常を日常化しているということが大事で、それが構えに繋がるんだと思っています。それはたまたま狭いコミュニティで話していることだと思っているんですけども、こういった運が良かった、良かったことをできるだけ多く積み重ねていくことが重要だと思っています。北部地震、西日本豪雨、台風 21 号、北海道で、マスコミはうまく行っていない事例ばかりとりあげて、西日本豪雨はそうで、大学の方でも逆の方でやっています。良い事例をどんどん集めてどんどん発信していこうと思っています。佐村河内さんの話も良い事例だと思っています。運が良かったというところで、日頃やっているからちゃんとできたとあえて言ってほしいと思っています。それは行政にも言えることで、今後やっていく中でどうやっていくのか今後課題があると思っています。日常化するなかで Vo をどうやっていくのかということで、こういったことを考えていかなければならないと私は思っています。

<桜井>

ありがとうございました。日常でいかに災害に備えるか、構えるかという中で、良い事例をお互い学んでいければということで、今回の 4 団体の話を受けて、ハードとソフトでどういったものが日常的にあったものが生かされたのかが、最後のまとめとして話していきたいと思っています。ハード面はストックヤードですね。これまでの災害被災地では、それは支援物資と食べ物、衣類というイメージがありましたが、そうではなくて今回、資材的などころでブルーシートや土嚢だとかそういった備蓄が必要だという教訓が大阪北部地震で見られたと思います。あるいは、今回は議論に出ませんでした、「お金」も必要かと思えます。特に、NPO、市民団体が救援活動にすぐに動くには、緊急に活用できる寄付なり支援金が重要となります。被災者の方には義援金もあるんですけども、義援金は被災者の手元にいくのに時間がかかるうえ、一人一人にわたる金額は少なくなることもあります。私は災害見舞金で行政が、いち早く被災した方たちに決まった金額のお金を渡す方が重要だと思っています。それとは別に、支援する団体にどうお金を支援するのが大事だと思って常に考えています。

ソフト面はネットワークであり、本日出ていた話として大事なものは、災害に対していろんな防災活動をいろんな団体でする上で、日常的な関係が災害で生かされたというところですね。たまたま面識があった、仕事での繋がりがあったというところが災害でも生かされたのが、今日の話でもあったかと思えます。災害関係者でよく話題になるのは、防災の取組というのは、災害が起きてすぐ後は盛り上がるけれども、だんだんと関心がなくなってくる、ということです。なので、深い関係は必要ないと思っていますが、日常的にいろんな団体同士が関わりを持つのが必要と思っています。社協さんや JC さん、IVUSA もそうですが、は全国、近畿などで繋がりがあって、中島さんのところは災害のネットワークが NPO 同士で全国的にある。そういった「専門的」な繋がりが地域の外にあるというのが大事かと思えます。一方で地域の中では、行政、市民活動、NPO、企業、市民の方、といった全然種類の違う団体同士の、いろんな繋がりが作れた方が、おそらく災害が起きた時には必要だと考えます。同質な地域は、地域の中では助け合えるんですが、それを超えた地域外の支援団体と関係は持っていないことが多く、想定外の事態への対応は難しいということ

です。いかに多様なネットワークを地域で作し、そこに関わる多様な団体・個人の（同質的な）ネットワークを地域外で作っていくのが理想かと思います。最後に、登壇者の方々からお一言ずつ話していただければと思っています。

<佐村河内>

日常が大切だとこの震災で思いました。まさかが起こってしまったので、これを契機に茨木市内が繋がっていければと思います。

<井谷>

僕自身が、何ができるかなっていうところを動けるように、日頃から災害現場にでてたから今回動けたと思っています。日頃から災害がおきると意識しながらっていうところを、先陣を切って若い人が動けていければと思っています。

<佐藤>

阪神淡路から、実際停電したり、ガス止まったり、身をもって感じることで、これを元にいろんなことを考えることで、風化させないようにすることを我々には行なっていきたい。あと、お金はJCでも経営者がいるので潤沢に回ってくることが多い。それよりもメンバー数が60名なので、その繋がりをもっと広めてこれだけのスキルを持っているメンバーがいるのもっと広めて、縦のつながりを強めて、横のつながりも広めて何倍も強めていければと思っています。

<中島>

レスキューアシストが今行なっているブルーシート張りは一回張ったから終わりではない。中にはお金がなくて業者を呼べない人がいて、劣化したらまた支援しなければならない。熊本でも二年間ずっと張り替えて張り替えて活動していました。今でもブルーシートを張り続けているところがあります。茨木でもそういう人がいて、最低でも一年間は茨木に残って支援を続けていきたいと思っています。

<桜井>

以上で本日の会を終了します。ありがとうございました。